

第7回 『財布が盗られた!?'の巻

最近ヨシ子さんが探し物をしている姿をよく見かけます。先日近所の人がヨシ子さんを訪ねた時、ヨシ子さんは『この前から財布が無くなって…どうも隣のえっちゃんに盗られたみたいなの…』と言いました。ある日、そのことが近所で話題になりました。

【物盗られ妄想について】

財布、預金通帳などの大切な物をしまっておいたのに、それ自体を忘れてしまい、なんとかつじつまを合わせようとする気持ちと「どうしよう」という不安感とがあわさって『誰かが盗んだのではないか』と考える場合があります。そんな時、「どうせどこかに忘れている」とか「こんな田舎に泥棒なんて」といった否定的な言葉はかえって逆効果となることが多いです。まずは、ヨシ子さんが困っていることを受け止め、一緒に探し、あなたが見つけることができたなら、ヨシ子さんが見つけやすいように誘導してみたらどうでしょうか。普段からどこに何が置いてあるかそれとなく観察しておけばヨシ子さんが見つけやすいように導くこともできると思います。

ヨシ子さんを地域から孤立させないためにも、「あの人には近よらん方がええで」などと避けずに、例えば「昔からあの人には世話になったから、ちょっと話を聞いてあげようかな」と、お互い様の気持ちで、これまで通りの関係を保てるとよいですね。

例 ②



例 ①

